

## 令和5年度旭川未来会議2030 女性活躍分野 第5回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年10月17日(火) 午後4時から午後5時20分まで
- 2 開催場所 旭川市第二庁舎 3階 問診指導室(旭川市7条通10丁目)
- 3 出席者(参加者) ※敬称略, 五十音順  
江良万里子, 川村健太, 坂井寿香, 相馬淳, 難波俊哉, 長谷川愛実, 早川舞, 山田貴子
- 4 出席者(市側)  
(運営事務局)  
女性活躍推進部 片岡部長  
女性活躍推進課 松山課長, 藤田課長補佐, 青木主査, 麻生主任  
(統括事務局)  
広報広聴課広聴係 乙坂主査
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 0名(市民等:0名, 報道機関:0名)

### 7 内容

#### (1) 議事「提案内容及び報告資料について」

(事務局)

報告資料及び資料に関して取りまとめた意見について説明した。

(参加者)

今回の資料が素晴らしく, 前回からのブラッシュアップ度合いもすごいと思った。フィードバックの内容含めて非常にいいと思うので, あとは発表者としてなるべく端的に説明できるよう, 共通部分を相談できればいいかなと思う。

(参加者)

すみまセンエン・プロジェクトに関しては, 女性から「何で謝らなくてはならないのだ」というクレームを受けた。「すみまセンエン・サンキューチケット」ならまだ理解してくれるかもしれないと思う。

(参加者)

前回から本当に資料のブラッシュアップがすごく, 「すみまセンエン」もインパクトがあると思った。ネーミングについては必要があれば今後変わるかもしれないということであれば, これが会場にぱっと映ると結構笑いが起こるのではないかと思い, 楽しみでわくわくしている。キャリアの保健室もすごく分かりやすく, 二つというのが今回とてもいいテーマになっているので,

それをうまくプレゼンできるようにしたい。

(参加者)

先週休んだ間に一気に具体的なものに進んでいた。こういう具体的な取組で女性のサポートができれば本当にいいなと思う。今まではざっくりしたことだけで、これまでもそうだったと思うのだが、それをどうやって改善するかということがないまま終わっている感じもあったと思うので、具体的な取組を提案できるのはとても楽しい気持ちでした。確かに「すみませんエン」って冗談で言ったりしたなと思い出してほっこりもしたのだが、謝る言葉というのはあまりプラスになることがないので、自分の会社でも「すみません」を「ありがとう」に言い換える取組をしたりしている。ありがとうに変えたことで周りの空気が変わるとか、そういう言葉の使い方はあると思うので、すみませんエンを使っても大丈夫だとは思いますが「サンキュー・プロジェクト」を大きく打ち出して、私たちが「ありがとう」を率先して言うことを旭川市の女性に伝えたいし、男性にも言ってほしい。

(参加者)

本当に後半の巻き返しがすごいなということと、まとめてもらい感謝の気持ちである。二つとも本当にすごく魅力的なプロジェクトに映る形でまとめてくれたので、個人的には採用される気がしている。キャリアの保健室については構想を提案させてもらったりもしたので、少しどうかなという部分があったり、「すみませんエン・プロジェクト」のように予算額などまで落とし込めたら良かったなと思ったが、その部分も相談イメージなどですごくカバーしてくれているのを感じた。

(参加者)

意見として提出した部分も早速盛り込んでくれている。もし「すみませんエン」にマイナスのイメージを持たれる方がいるとしたら、私はあまりそうは受け止めていなかったが、この「サンキュー」がついたことでポジティブなイメージに修正されたので、よいのではないかと思って聞いていた。

(参加者)

事前に提出した意見の中でも述べたが、あくまでもこれは提案なので、やはりインパクトが必要で、それをどう捉えられるかは分からないが、これを参考にして今後の施策に生かしていくということなので、若干否定的な意見もあったようだが、「すみませんエン」は確実に残したいと思って意見を色々書かせてもらった。保健室というネーミングもとても良かったので、これもそのままにしてもらい、すごくいい内容になったと思う。

(事務局)

では、報告会資料の内容は確定するということで了承いただけるだろうか。

《一同同意》

(参加者)

発表の用意をする中で、一部文言を変えることは可能だろうか。

(事務局)

もちろん大丈夫である。

(参加者)

では19ページの部分なども『すみません』ではなく『ありがとう』と言える」などに変えてみてもいいのではないだろうか。

(事務局)

プレゼンについては、ぜひ伝わるプレゼンにしていきたいと思います。今、とてもいい資料が確定したので、皆さんが今まで積み上げてきた女性活躍への思いを、しっかりお話するのがいいと思っている。

(参加者)

プレッシャーが1.5倍くらいになったが、頑張りたいと思う。

(参加者)

何かで見たのだが、こういう相談室的なことは既にやられているのではないか。

(事務局)

女性活躍推進部の事業には大きな二つの柱があり、そのうちの一つとして女性相談がある。その中でも就労に関する話は少しあるが、この相談とは少し違うものになる。

(参加者)

それを、こういう形に変えていくというのかもしれないが。

(事務局)

女性相談はDV被害者支援や経済的困窮などについての相談窓口であり、どちらかというと経済的・精神的に生活困窮しているという人の相談が主である。

(参加者)

キャリアの保健室にもお金や健康が入っているので、そういうところは重複しているところもあるのではないか。

(事務局)

少し重なる部分はあるが、そこは棲み分けしていこうと考えている。

(事務局)

では今、提案があったように、「効果」のところのセリフを変えるなら変えてしまおうと思う。ここ以外に変えた方がいいところは何かあるだろうか。

(参加者)

最後のページはインパクトがあるので、「ありがとうを伝えるすみませんエン」とか、「すみませんエン・サンキュープロジェクト」とかにした方がいい。このチケットの絵が見えているときは面白くてとても好きなのだが、「すみませんエン」だけだと、とてもさみしい感じがしてしまう。

(事務局)

では、ここはどちらのタイトルもフルタイトルで記載して、『女性のキャリアの保健室』と『すみませんエン・サンキューチケット』で応援していきませんか」というふうにしたいと思う。

(参加者)

1点いいだろうか。「すみませんエン」というワードをネガティブに思っている方は多分、前回話し合った場になかったので流れがつかず、言葉だけを聞いたから「何ですみませんって言わなくてはならないのだ」と感じるのだと思う。前回の話合いで、まず何が今一番課題かなと考えたときに、働き始めたときや就職した後、例えば上長などに毎回「ありがとう」と言いながら子供の面倒を見に行ける人はなかなかおらず、実際に「すみません」と言っている現状がこの地域社会にある。それを何とかしたいという話の中で、じゃあ何かそこにあてられるチケットはないかという話になり、この「すみませんエン」というワードが面白いねという話になった。ただ結論として「すみません」と言っていることがおかしいとは僕たち自身も思っている。すみませんエンというのは本来、企業側が支援するべきものだと思う。働きたいけど子供を迎えに行かなければならないというのは、企業が応援すれば一般的になると思うが、そもそも旭川では知識や財務的な余裕がなくて、なかなかできない企業も多いと思う。そこに対して市が様々な形で支援してあげて、両方が負担することで、このこと自体が普通になっていき、いずれこの「すみませんエン」がなくなって、ありがとうになったらいいよねというアンチテーゼ的な流れを、プレゼン中でもしていこうとは思っている。この流れというのが、前回、話合いを聞いていたメンバーであれば違和感がないという感想になったのかなと思うので、その辺りは皆で意識を統一して、プレゼンもそういう流れにして、すみませんエンを最終的になくしましょう、こんなのなくても受け入れられる旭川市にしましょうという投げかけにしていきたいと思っている。

(参加者)

今の説明を聞いて、それが書いてないと分からないと私は思う。

(参加者)

それは言葉できちんと説明しようと思っている。プレゼンはインパクト重視だと思うので、言葉できちんと説明していくのがいいのかなと。

(参加者)

市民の人はこの会議に出ていないので、資料だけぱっと見たときに何で謝るのだろうというのは絶対ある。一市民がはっきりと自分に言ったから。だから先ほどの発言は本当にそのとおりで、その話をきちんとして、見た瞬間でもそれが伝わるようにしなければならない。

(参加者)

前回の話合いで、そこをPRしていく必要があると言っていて、だからこそ「すみません」と言ってしまうことを「それはおかしいよね」ということでインパクトもあるのではないかという話合いがあった。

(事務局)

では最後と効果のページは、発表者とやりとりしながら詰めさせてもらう。今話した部分は若干調整するが、その他のところは大丈夫だろうか。

〈一同同意〉

(事務局)

ではこの流れで進めたい。実際のプレゼンでの発言内容は少し変わると思うが、発表者のお二

人に現時点の原稿ベースでリハーサルをお願いしたい。

(参加者：発表者)

〈リハーサル〉

(事務局)

だいたい12分半である。今のリハーサルを聞いてみて、ここを少し省いたらいいとか、ここはもう少し言った方がいいなどがあれば、御意見ををお願いしたい。

(参加者)

我々が考えてきたことを、これ以上端折って伝わらなくなるのは嫌だし、事前にも資料を見てみたが意外と省けるところがない。きちんと簡潔に説明しているので、聞いていて長いという感じもなかった。

(参加者)

お二人とも聞きやすい。初回なので、まだ原稿を読んでいる感じのところはあったが、おそらくもう少し自分の言葉が入ってのびのびやると思うが、ぜひ自分の言葉で伝えてもらえたらと思う。あとは、発表者の発言のタイミングと最初に「すみません」が映るタイミングをうまく合わせて、すみませんの絵を「2つめの提案はこちらです」といった瞬間にパッと出すと、何だこれはというインパクトがあると思う。

(参加者)

そのタイミングは計りたいと思う。

(参加者)

プレゼンは素晴らしいなと思ったが、先ほどから言っているように、それこそ似顔絵は「すみません」じゃなくてサンキューか何か違う言葉にしてはどうか。市長がこの情けない顔をしているイラストを見て本人は喜ぶと思うのかということもほかの人から言われた。むしろ「ありがとう」とニコニコしている絵の方がいいのではないかという意見もあったので、もう少し明るい感じにした方が良いのではないか。

(事務局)

新しいイラストを御用意いただくにも時間がかかるという兼ね合いもあり、事務局として全ての意見と状況を比べて判断し、「サンキュー」をタイトルの全面に押し出しながら「すみません」を生かさせてもらうという判断をしたので、御容赦願いたい。

(参加者)

とてもよいプレゼンだと思った。しかし私も先の意見と少し同じなのだが、マイナスの言葉をプレゼンでは使ってはいけない気がする。こうなりたいという姿を見せるものだと思っているので、謝っている感じだけは違うとを感じる。発表資料のほかのページについても、マイナスなことを書くよりはプラスの言葉に全部変えられると思う。18ページの「負担の軽減」というのも「心理的安全性」などを使えば「負担」という言葉を使わなくてもいいのではないか。

(参加者)

子供が2人いるが、負担はとてもある。子育てしている人は皆、現実はどうじゃないよねとい

うのはあるのではないだろうか。もちろん、だから子供はいらないなどとは思わないが、「うわー、またお迎えに行かなければならない」とか、女性はもっとそういうことがあると思う。僕ですら負担があるので、そこまで気にしなくていいのかなと思う。

(事務局)

考え方として、あまり悪いことを見たくない、言いたくないという人もいるが、「つらい」というところを現実として認めてほしいという人もいると思う。「すみません」もそうだが、一見、負の要素があるようだけれども、先ほどアンチテーゼという意見があったように、負のものを良くする、まずは現実を認識してもらった上で、それを皆で改善しようという話なのだと思えた。

(参加者)

語弊があるかもしれないが、いかに世の中の男性が進んでいないのかというのはある。うちの奥さんは結構大きな会社で働いているが、それでも「また？」みたいなものがあり、「いいよ、いいよ」という感じではないと言う。だからこそ旭川市の女性活躍が進まないのではないかと思っていて、そこはもちろん言葉尻なのでこだわってはいないが、でも負担は負担だし、皆「すみません」と言ってるし、ということをきちんと認識した上で、それは変えないといけないよねというプレゼンの着地に持っていくことが重要かなと思う。

(事務局)

管理職としては、産休を取る側もそれを支える側も両方が大切である。その双方の良好な関係が保てるのが一番理想だが、現実もよく知っている。だから今回の皆さんのプレゼンが、片方だけじゃなく両方をしっかり理解した上で、そのさらに前に行くということを表現できたらなと感じた。

(参加者)

プレゼンターのお二人のプレゼンが素晴らしかった。声もとても通ってきちんと聞きやすかった。市長への投げかけだったり、コメントみたいなものを既に混ぜ込んでいたが、ここからさらにブラッシュアップして、そういう声掛けみたいなものを入れていただくと、さらにプレゼンとして良い形にまとまりそうだなとすごくワクワク聞いていた。

(事務局)

発表者に発言内容は決めていただくが、資料自体は先ほど言った最後のページとすみませんエンの効果のところを事務局で最終調整させてもらい、確定資料を皆さんにメールでお送りし、当日それで発表するという流れでいいだろうか。

〈一同同意〉

## (2) 分野別会議の総括

(事務局)

急ぎよというか、前回からがらりとブラッシュアップされてこういう形になったが、本日が全員でこうした平場で話ができる最後の会議になるので、最後に全て総括して皆さんから一言ずつ願います。

(参加者)

色々話して、皆の意見をまとめてすごく膨らみ、それを前回から今回にかけてギュッと絞りを絞って、すごい勢いでこの5回でここまで来たなと思った。ここで話があったことや皆さんの意見も聞いて、それを今後の自分の働き方に活かしていきたいし、活かしていけそうだなという、少しポジティブな気持ちになれる会議だったので、参加できて良かった。ありがとうございました。

(参加者)

私も最初話をいただいたときは、時間的にもどうしようかなと思ったのだが、自分も企業の経営者として女性の活躍を推進したいと思っているし、色々な人の意見を聞く機会はとてもプラスになるのではないかと、そんな可能性もあるな、くらいの感じで最初は参加させてもらったのだが、色々な参加者の皆さんの意見を聞かせてもらい、自分が思っていたこともそうだし、そうじゃないこともとても理解できたので、自分としても本当に勉強になった。色々な方とこういう形でつながることができたので、これをより一層、今後も深めていきたいなと思った。これで終わりではないと思うが、お疲れさまでした。ありがとうございます。

(参加者)

最初は私も女性活躍というものを特に意識しておらず、本当にふわっとした感じで参加してしまっただけで、でも何となく、こうだったらいいよねとか、こういうのはちょっとという不満があった中で、それがどんどんまとまって行って、こんなふうにきれいに整理されてすごいなと思った。あとはやはり色々な意見があって、「すみません」という言葉一つとっても、色々な事を感じるということがあって、自分自身、物事を一面だけでなく、常に色々な意見があるということ意識していたつもりではあったが、実際に色々な意見があるということは自分の中ですごく勉強になった。ありがとうございました。

(参加者)

自分の勤める組織が女性活躍を進めている最中ではあるが、どういう取組をしていくかということ企業として考えるのは男性しかおらず、人事部に女性職員はいるが、彼女たちからはアドバイスをもらうくらいで、推進のための取組を決める場には女性がいないため、この場での皆さんの意見を得た中で、自分の企業の女性活躍に生かせる部分があるのではないかと参加させてもらった。様々な女性の意見というのは大変参考になった。やはり男性だけでは思いつかないような色々なアイデアや考え方があるということがすごく分かったので、もちろん企業の推進にとっても参考になったし、私が個人的に考えている女性活躍というところにも今後の参考にしていきたいと思った。1回目からこの会議に参加させてもらい、本当にプレゼンまでできるのかなと正直思っていたが、このような大変素晴らしい資料とプレゼンを聞かせてもらい、しみじみ良かったなと思っている。あと1回、当日の本番があるので、皆さんと最後を迎えたいと思う。ありがとうございました。

(参加者)

皆さんの素晴らしい意見を聞かせてもらい、昭和を代表するおじいちゃんが女性活躍というものに何の意見を出せるのだらうと思いつながら、幸いにして我が家には既に活躍している女性がいたので、その方の参考意見を色々聞きながら、まとめさせていただいた。本当に取り方は人それぞれ色々あるので、初めての方にもそれが伝わるような言葉に変えていかなければならないと

というのは、そのとおりだと思った。ぜひ実現に向けてやっていただきたいと思う。昨年の未来会議はあまり形にならなかったということ色々聞いているが、せっかくなので何とか実現していただきたいと思っている。ありがとうございました。

(参加者)

最初の会議で「あなたにとって女性活躍とは」ということを話したことを思い出した。その時はまだ何となくぼんやりしていて、自分の半径3メートルくらいの小さな困り事や経験から考えたことや思ったことを話していたのだが、それが最後にはこんなふうに、旭川市の未来だったり、未来に実現できればいいなという、未来の旭川に暮らす女性の方々の困り事や思い込み、普段感じているコンプレックスなども解消できるようなプロジェクトに出来上がったということに、皆の意見をここまでまとめてくれた事務局の皆さんには本当に感謝している。学校のサークルみたいで、これで終わってしまうのがとても寂しく、何かできたらいいなと思ったりしている。本当に出会ってくださってありがとうございました。

(参加者)

本当にありがとうございました。私は商工会議所の女性会というところから行くように言われて来ているため、周りの女性は起業している女性ばかりで、女性は活躍できるとばかり思っていたのだが、会社を見るとまだまだ現実とは違っていて、苦労されていることもよく分かった。それぞれの方がおっしゃっている意見も全てに意味や価値があり、そういうことを皆で理解してディスカッションすることで、それが改善に向かっていく様子も一緒に参加していて分かったので、こういった会議やディスカッションなど、皆で意見を言うというのはとてもいい機会だと思った。会議所でも役員といった人たちは女性が本当に少なく、どこを見ても男性社会で、女性がゼロという団体もあるので、そういう点も変えなければいけないと思うし、女性がいないと話合いができないこともあり、女性がいないとダメだと思う。そういうことを再確認させてもらった。参加したことがきっかけで、私たちが一つでも何かこれから取組をサポートすることができたらいいと思った。

(参加者)

私は、先ほどのプレゼンの中にあつた更年期を抱えていて悩んでいるというような「ザ・当事者」という人が20代から50代ぐらいまでいるコミュニティを運営している。その中で、私の近くには当事者しかおらず、そうした中で何か活躍推進できることはないかなと仕事をしているのだが、今回この会議に参加させてもらい、当事者を支える側だったり、当事者の周りの方の色々な意見を聞けたりといったことが本当に貴重だったと思い、改めて感謝している。皆さん立場が本当に全く異なっていて、多面的な視点での意見を出せたのがとても良かったと思っており、その中で出せたこの二つというのはすごく価値があるし、ものすごく精査されたものだと思っている。本当に良い中身で終わったのがすごくうれしいと思う。皆さんが仰っていたように、これで終わるのがすごくもったいないとか寂しいなという気持ちもすごくあり、何かしらつながって何かできるとすごくいいなと思っている。ありがとうございました。

(部長挨拶)

本当にありがとうございました。色々な議題を一つずつ皆さんで出すところからやってきたが、疑問に思ったり、それは違うのではと思ったり、逆に大賛成と思うこともあった。自分自身が女

性活躍推進部という新しい部局を任された中で、本市の女性活躍をどうしたらいいのだろうということ、皆さんと考える時間になったと思う。あのたくさんの課題の中からしっかり整理をしていき、この大きな事業二つを提案できることは、過程も大切なものだったと思っている。本日欠席の方もいるが、皆さんの誰一人が欠けても、ここまではできなかつたと改めて思っている。

この旭川未来会議2030で私たちが話し合ったことは、必ずどんな形でか、しっかり引き継いでいくことができるのではないかとと思っている。報告会の当日はしっかり市長に伝えて、そして事業化できるものはしっかり事業化していきたいと思っている。今回、色々な立場から参加いただき、この縁は本当に貴重で誇りだと思っている。何名かの方もおっしゃっていたが、私もこの縁は大切にしたいと思っているので、ぜひ何か考えていきたいと思っているし、もしアイデアがあればお示しいただきたいと思う。来週は楽しみにして見守りたいと思う。

ありがとうございました。

(事務局)

この5回目の会議ができるということが本当に奇跡的であり、こういう形で終わったのも皆様のおかげだと思っている。

以上で旭川未来会議2030女性活躍分野第5回分野別会議を終了する。

どうもありがとうございました。